

人社研ニューズレター

(博士後期課程)

第 15 号

発行者

千葉大学大学院
人文社会科学研究所博士後期課程
phone/fax 043-290-3574 (助手室)
sshassist@shd.chiba-u.ac.jp



人文社会科学研究所専任教員

目次

巻頭辞	1	社文研・人社研院生の研究業績紹介	13
平成 17 年度後期学位記伝達式	2	平成 18 年度前期全体研究会のお知らせ	13
新任教員紹介	3	平成 18 年度紀要刊行予定	13
所属教員による出版物紹介	10		
科学研究費（新規）プロジェクトの紹介	10		

古い史料と新しいテクノロジー

人文社会科学研究科長 秋元英一

今年の2月、公務の合間を縫って、短いリサーチ旅行に行った。ある科研費の分担者に対して出された外国旅費を使っただけであるが、このグループの人々から、最近では、アメリカの多くの文書館や図書館でデジカメによる資料撮影を許可していて、これは、非常に効率がいいということを知っていたので、それを試してみるということも目的のひとつだった。行った先は、ニューヨーク州ハイパークにあるフランクリン・D・ローズヴェルト(FDR)図書館である。事前に問い合わせると、フラッシュを使わないかぎり、デジカメ使用はかまわない、という返事だった。最初に見た史料はニューディール期の財政支出派で、消費者的観点の強かったレオン・ヘンダーソンのものだったが、この人は、あまり私信を書いておらず、ウィスコンシン州立歴史図書館などで、編年的に整理された私信を見ることで、その人のある問題にたいする考え方の軌跡をたどる方法に慣れていた私には、失望させられる感じであった。ヘンダーソンは NRA(産業再編局)の研究計画部門にいたあと、第二次大戦中には、物価管理局長もつとめたことがあるので、この方面に関心のある研究者には興味が尽きないであろう。

さて、肝心のデジカメ撮影の具合だが、この図書館のルールでは、角をステイプルで綴じてない資料は自分でコピー機を使ってコピーしてよいが、綴じてあるものは、1枚 50 セントほどする、スタッフに頼むコピーを選択しなければならない、ということであった。そこで、綴じてあるものを自分でコピーしたいときになるべくデジカメを使うことにした。心配した室内であるゆえの光量不足は大丈夫そうだったが、私の持ち込んだデジカメは最近はやりの手ぶれ補正機能がついていない古い機種だったので、これが悩みの種であった。ホテルに戻ってファイルを見てみると、みごとにぶれて読めないものがいくつかあった。ということは、一枚一枚撮影するときに、三脚使用では時間的にロスが大きすぎるので、シャッターを押す瞬間に緊張を余儀なくされた。それと、せっかく1ギガのメモリーカードを用意したのだが、撮影可能な300余枚に行かないうちに、電池切れとなってしまう。これもコンセントからとれば解決する問題だった。もうひとつ、自分でコピーするときには、余白にいくつ目の箱のどういうファイルの中にあった、とメモしておけばいいのだが、デジカメはそれができにくい。これもあとで考えると、ある一群の史料を撮影する前に、メモ用紙に大きな字で情報を書いたものを撮影すれば済むことであった。なお、実践したいひとのために付け加えると、広角(28ミリ)が必要である。

この図書館はアクセスが悪い。近くの町からタクシーを拾うのだが、信頼できるタクシーにめぐり会う必要がある。また、食堂が歩いていける距離には見つからないので、昼食は地下にあるせまい休憩室で自販機のコーヒーや持参のバナナ等でごまかすことにした。見かねた係の女性がある日、秋元さん、これから食事に出るのだけど、一緒にいかが？ と聞いてくれた。セキュリティ・チェックのきびしさが世相を反映しているが、施設を取り巻く森は、早春や紅葉の秋にはさぞきれいだろうと思われた。

FDR 図書館は、結果的に大統領図書館の最初の形になったが、最近の、クリントン図書館などは、オンラインでかなりの資料を読めるし、ボストン港に近いケネディ図書館では、すべての所蔵資料をオンラインで読めるようにするために、準備中である。少なくともアメリカでは、研究をとりまく情報公開の流れが着実に進行中である。ひるがえって、日本で首相経験者の図書館ができて、政策立案過程があとの時代の研究者によって追跡できるような日が来るのだろうか？



平成 17 年度学位記伝達式

2006 年 3 月 24 日（金）、社会文化科学研究科科長室に於いて学位記伝達式（左写真）が行われ、9 名の方が社会文化科学研究科を修了し、学位を取得されました。また、2 名の方が論文提出により学位を取得されました（学位授与式は別日程）。

課程博士

氏名	論 題	取得学位
稲本竜太郎	ハンナ・アーレントの芸術概念	博士（学術）
大野顕子	Preachers' Choice or the Historical and Stylistic Development of the Uses of the Relatives in Medieval English Homilies	博士（文学）
姜孝叔	第2次東学農民戦争と日清戦争—防衛研究所図書館所蔵資料を中心に	博士（文学）
王書璋	芥川文学における中国の古典と近代—古典文学と旅行体験を軸にして—	博士（文学）
李林静	ホジェン語の動詞構造	博士（文学）
冷羅生	中国違憲審査制度の研究	博士（法学）
間宮郁子	地域社会に棲みはじめた精神障害者—通所授産施設を中心とした地域生活支援の動態	博士（学術）
横山陽子	近世身分制社会と被差別民—奥羽南域内陸部を事例に—	博士（文学）
陳金霞	中国における医療システム改革—日本の経験からの示唆	博士（学術）

論文博士

氏 名	論 題	取得学位
渡部朗子	成年後見制度の比較研究—身上監護を中心に	博士（法学）
王忻	中国人学習者に見られる誤用の研究—日中言語対照の視点から	博士（文学）

新任教員紹介 (50 音順)

平成 18 年 4 月の人文社会科学研究科発足と同時に 20 名の方が新たに博士後期課程に着任されました。

- ①よみがな
- ②人社研での担当科目
- ③生年
- ④最終学歴
- ⑤職歴
- ⑥研究テーマ
- ⑦主要業績
- ⑧趣味や特技など
- ⑨大学院生にひとこと

石戸 光助教授

- ①いしど・ひかり
- ②国際経済論特講、アジア経済論特講
- ③ 1969 年
- ④ロンドン大学大学院経済学研究科 (2001 年)
- ⑤国連開発計画 (1998-2000)、アジア経済研究所 (2002-2005)
- ⑥国際経済を中心としたグローバルな相互依存関係の解明
- ② Economic Determinants of Foreign Direct Investment by Multinational Firms: A New Institutional Analysis (Chiba University, Research Monograph Series in Economics 6, 1 December 2005)
「東アジアの『イノベーション』－経済統合の動態的利益－」平塚大祐編『東アジアの挑戦：経済統合・構造改革・制度構築』アジア経済研究所 (研究双書 No.551、2006 年 2 月 28 日)
- 共著 “Vertical Intra-Industry Trade and Foreign Direct Investment in East Asia” *Journal of the Japanese and International Economies*, 17, pp.468-506, 2003
- ⑧ジョギング、旅行 (国内および海外)
- ⑨専門の勉強と幅広い勉強の両立ができるといいですね。楽しくがんばってください。

上村 清雄助教授

- ①うえむら・きよお
- ②「視覚表象論」、「視覚表象論演習」
- ③ 1952 年 10 月 10 日
- ④東京芸術大学美術研究科西洋美術史専攻 (大学院修士課程) 1978 年修了。シエナ大学美術研究科 1986 年修了。
- ⑤群馬県立近代美術館学芸員 (1987-2002 年)、2002 年 4 月より現職。
- ⑥イタリア彫刻史を中心とするヨーロッパ美術史
- ⑦ 1) 「ミラノとイタリア近現代彫刻－メロッティとロッソ」、『ミラノ展』(展覧会カタログ)、読売新聞社発行、2005 年 9 月、23-25 頁。
2) 「15 世紀シエナの彩色木彫研究－絵画表現との関連とその社会的な役割－」(平成 15-16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) (2) 研究成果報告書)、2005 年 11 月。
- ⑧小旅行
- ⑨語る、書くという表現行為は頭の中に映じたイメージを言語化することではないでしょうか。私が専攻している美術史はイメージを分析し言葉に表現することを目指しています。一見対極的な関係にあるか見えながら、表現する点ではそれぞれ補完しあう関係にあるといえます。イメージ研究の難しさと楽しさを一緒に学んでいきましょう。

魚住 弘久助教授

- ②都市行政学

金本 正武教授

- ①かなもと・まさたけ
- ②教育課程開発基礎論
- ③昭和 25 年 5 月 11 日
- ④東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了
- ⑤昭和 53 年 4 月～平成元年 3 月 東京都立高校教諭、平成元年 4 月～平成 14 年 3 月 文部科学省 (旧文部省) 初等中等教育局教科調査官

⑥音楽学研究(西洋音楽史)、音楽教育学研究(音楽科カリキュラム論)

⑦ J.S.バッハの自筆楽譜研究(自筆楽譜「トッカータ」の校訂(共同研究)

「鑑賞教育私論」(音楽教育学会紀要論文)

「音楽科授業論」(単著)

⑧囲碁、スポーツ観戦、旅

⑨ 私は、音楽科教育及び音楽の学問研究が専門です。しかし本年は、教育的な観点に立って、上記の講座を開講しました。広い視野に立って、かつ、教育的視野に立って、みなさんが研究を進めることが大切だと考えたからです。研究は、とすると、一般の方々には理解されにくい内容になります。しかしこれからの時代は、大学における研究は、様々な意味で広く社会に還元されるべきと考えます。このような考えをしっかりと持ってこれからの研究生生活を送っていただければ幸いです。

神戸 和昭教授

①ごうど・かずあき

②日本語史資料論

③ 1960 年

④東北大学大学院文学研究科(国語学専攻) 博士後期課程単位取得退学(1990 年)

⑤東北大学文学部助手(1990 年～ 1992 年)、千葉大学文学部講師(1992 年～ 1995 年)、千葉大学文学部助教授(1995 年～ 2006 年)、千葉大学文学部教授(2006 年～)

⑥近代日本語の成立、近世の言語文化

⑦「格助詞ガ・ノの用法から見た俳諧表現史の構想—芭蕉・蕪村・一茶の発句をめぐって—」近代語学会編『近代語研究 第 12 集』(武蔵野書院、2004 年)

「十返舎一九合巻の江戸語—『金草鞋』における「ござる」を手がかりに—」飛田良文編『国語論究 第 12 集 江戸語研究—式亭三馬と十返舎一九—』(明治書院、2006 年)

「いま近世・近代語研究で何が問題か—近世～明治期江戸語・東京語研究を中心に—」全国大学

国語国文学会編『日本語日本文学の新たな視座』(おうふう、2006 年)

⑧散歩

⑨昔の研究書をも積極的に繙いて、人文科学における「進歩」とは何かをじっくりと考えてみて下さい。

後藤 弘子教授

②ジェンダー・少年法論

柴 佳世乃助教授

②日本仏教文学論

渋谷 望助教授

①しぶや・のぞむ

②現代文化論

③ 1966 年

④早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程(1995 年)

⑤早稲田大学人間総合研究センター助手(1995 年-1999 年)、日本学術振興会特別研究員(PD)(2000 年)、千葉大学文学部助教授(2000 年-)

⑥現代社会における身体・文化・統治

⑦『魂の労働——ネオリベリズムの権力論』青土社 2003 年

「ヒップホップの記憶政治」DeMusik Inter 編『音の力——ストリートをとりもどせ』インパクト出版 2002 年

「排除空間の生政治」斉藤純一編『親密圏のポリティクス』ナカニシヤ出版 2003 年

⑧DIY ?

⑨千葉大の図書館は本や雑誌が少ないので文科系の貧乏な研究者にとっては大きなハンデですが、そこはしっかり自覚して、努力と創意工夫によって乗り越えてください。

杉田 克生教授

①すぎた・かつお

②学習認知神経学応用論

③昭和 28 年 10 月 30 日

④昭和 54 年 千葉大学

⑤昭和 63 年千葉大学医学部小児科助手、平成 9 年千葉大学教育学部助教授（臨床医科学）、千葉大学教育学部教授（養護教育学）

⑥小児の認知発達

⑦ Shimoyama I, et al. Information volume in recognizing the Japanese cursive syllabary “HIRAGANA”. In: Tsuji S, Kakigi R, Tobimatsu S, Uozumi T, Akamatsu N ed. International Congress Series, *Unveiling the Mystery of the Brain: neurophysiological investigation of the brain function*. Vol. 1278, Elsevier BV, March 2005:169-172.

Sugita K, et al. Magnetoencephalographic analysis in children with Panayiotopoulos syndrome. *J Child Neurol* 2005; 20(7):616-618.

Sugita K, et al. "Hiragana" and "Romaji" phonological Reaction Time in Children of Italian-Japanese Bilinguals. *IMJ* (in press)

⑧旅行

⑨人間には文系も理系ありません

中澤 秀雄助教授

①なかざわ・ひでお

②地域変動論・同演習

③ 1971 年

④東京大学大学院人文社会系研究科博士課程、博士（社会学）（1999 年）

⑤札幌学院大学社会情報学部講師（2000 年-2003 年）、千葉大学文学部助教授（2003 年-現在）

⑥地域・都市社会学と社会運動論を根城に、現在は以下のようなテーマ群をめぐって調査研究を展開している。

1) 持続可能な地域社会の探求、まちづくり論

2) 「地域社会の分極化」をめぐる現状分析

3) 社会調査論とデータアーカイブの構築

⑦『住民投票運動とローカルレジーム：新潟県巻町と根源的民主主義の細道 1994-2004』ハーベスト社, 2005 年

『社会運動という公共空間』（共著）成文堂, 2004 年

「サステナブル都市論の展開と日本の環境自治体政策」『日本都市社会学会年報』22 号, 2004 年

⑧園芸と convivial tool としての PC

⑨構えは大きく、問いの出発点は小さく。トンネルを抜けると風景も変わります。

長根 光男教授

①ながね・みつお

②心理生理健康教育論

③昭和 24 年

④昭和 60 年 上越教育大学大学院修士課程修了（県外研修教諭）

⑤昭和 51 年 埼玉県公立小学校教諭、平成 15 年 千葉大学教育学部助教授、平成 18 年 千葉大学教育学部教授

⑥心身健康論—唾液中内分泌ホルモンを指標としたサーカディアンリズムの分析—

⑦ Relationship of subjective chronic fatigue to academic performance, *Psychological Reports*, Vol.95, 48-52, 2004.

唾液中 Cortisol 及び Melatonin の ELISA 法による測定とサーカディアンリズムの評定『千葉大学教育学部研究紀要』Vol.54, 25-30, 2006

⑧山野草の写真撮影、野鳥観察、詩作・動物カット画・楽器遊び、おいしいコーヒーとデザートづくり

⑨幅広い視野を持った研究者を目指して欲しい

藤井 俊夫教授

①ふじい・としお

②法公共教育論

③1946年

④早稲田大学大学院法学研究科博士課程満期退学（1976年）

⑤千葉大学教育学部講師（1976年）、同教授（1989年）、千葉大学理事（2004年）、同教育学部長（2004年）、現在、同大学院専門法務研究科教授

⑥司法権と憲法訴訟

⑦経済規制と違憲審査（1996年成文堂）、情報社会と法第 2 版（2004年成文堂）、国際社会と法第

2 版 (2005 年成文堂)

⑧

⑨焦らずにじっくりと学んでください。

藤川 大祐助教授

①ふじかわ・だいすけ

②公共メディア教育論

③ 1965 年

④東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学
(1995 年 3 月)

⑤ 1996 年 金城学院大学文学部専任講師、1997 年 金城学院大学現代文化学部専任講師、1999 年 金城学院大学現代文化学部助教授、2001 年 千葉大学教育学部助教授 (現在に至る)

⑥授業実践開発 (特に、メディアリテラシー教育、ディベート教育、企業やアーティストとの連携授業)

⑦藤川大祐編、NPO 法人企業教育研究会著『企業とつくるキャリア教育』教育同人社、2006 年
二杉孝司・藤川大祐・上條晴夫編著『授業分析の基礎技術』学事出版、2002 年

藤川大祐編著『メディアリテラシー教育の実践事例集』学事出版、2000 年

⑧ヒット曲鑑賞、テレビドラマ鑑

⑨私は、「誰もが教育に貢献する社会」を目指して研究活動を進めています。みなさんの研究が教育や広く社会一般にどのようにして貢献しうのか、期待しています。

藤田 幸雄教授

①ふじた・ゆきお

②スポーツ健康生理論

③ 1958 年

④筑波大学教育学博士 (1987)

⑤千葉大学講師教養部 (1988)、千葉大学助教授教養部 (1992)、千葉大学助教授教育学部 (1994)、千葉大学教授教育学部 (2006)

⑥スポーツ活動中のエネルギー効率、アクティブリカバリーの効果等

⑨著書「強くなる空手 組手上達 7 つの秘訣」福

昌堂、東京 (1999)

高血圧自然発症ラットの活動期における連続血圧測定、日本臨床生理学会雑誌 21:239-250 (1991)

足関節底屈運動における Active Recovery 部位の相違が筋酸素動態に与える影響、千葉体育学研究 28:21-30 (2003)

⑧空手道、スキー

⑨自意識にとらわれない議論がしたい。

藤田 剛志助教授

①ふじた・たけし

②自然科学教育論

③ 1956 年

④筑波大学大学院博士課程教育学研究科教育学専攻 (単位取得退学、1987 年)

⑤埼玉純真女子短期大学非常勤講師児童教育学科 (1986 ~ 88 年)、東海女子短期大学講師児童教育学科 (1988 ~ 92 年)、東海女子短期大学助教授児童教育学科 (1992 ~ 94 年)、千葉大学助教授教育学部 (1994 年~現在)

⑥理科の教授・学習および評価に関する研究。特に問題解決学習や学習意欲を研究対象としている。

⑦日本理科教育学会 (編)『理科教育講座 第 4 巻 理科の学習論 (上)』東洋館出版社 (分担執筆)
「現代欧米における生物の問題解決学習の展開—遺産を中心に—」273-292 頁 1992 年.

‘Comparative Study on the Students’ View of “Environment” in Japan and Germany’, 『科学教育研究』, Vol.23, No.4, pp.295-306, 1999 年.

『理科を学ぶ意欲を育てる課題志向問題解決学習に関する研究』平成 13-15 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2) 研究成果報告書 研究代表者藤田剛志 (課題番号 13680192) 2004 年.

⑧特になし。

⑨人一能之、己百之。人十能之、己千之。言うは易く行うは難し。ぜひ、実行を。

松尾 七重助教授

①まつお・ななえ

②数理教育論

③ 1965 年

④筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育
学専攻 1997 年単位取得満期退学、1998 年 博士
(教育学) (筑波大学)

⑤ 1997 年 千葉大学教育学部講師、1999 年 千
葉大学教育学部助教授

⑥長期：学校数学における図形の概念形成に関す
る研究、中期：図形領域における算数科と数学科
の指導の連続性に関する研究

⑦ 1996 年 3 月．図形の概念形成を促す要因に関
する基礎的研究－長方形の弁別に着目して－．数
学教育学論第 65,66 号，pp.3-33.

2000 年 3 月．算数・数学における図形指導の
改善．東洋館出版社．

2004 年 11 月．定義の捉え方が図形の概念形成
に及ぼす影響－小学校 6 年生と中学校 2 年生の捉
え方の分析を通して－．日本数学教育学会 (岡山)
第 37 回数学教育論文発表会論文集 (pp.307-312)．

⑧旅行・ドライブ，料理

⑨大学院時代には自分の時間の大半を研究に使う
ことができます。大学院生のうちに，研究テーマ
に関わる十分な基礎的研究を行い，後に発展でき
るようにしておくことが大切であると思います。

村松 茂司教授

①むらまつ・しげじ

②スポーツ健康栄養科学論

③ 1951 年

④筑波大学大学院体育科学研究科 (博士課程) 1980
年 3 月

⑤ 1980 年 4 月筑波大学研究協力課準研究員採用
(～1983 年 9 月)、1983 年 10 月千葉大学講師 (教
養部) 採用 (～1986 年 4 月)、1986 年 5 月千葉
大学助教授 (教養部) 昇任 (～1994 年 3 月)、1994
年 4 月千葉大学教育学部転属 (～1998 年 6 月)、
1998 年 7 月千葉大学教授 (教育学部) 昇任 (～2006
年 3 月)、2006 年 4 月千葉大学大学院人文社会科

学研究科転属 現在に至る

⑥運動と栄養と健康。特に運動とタンパク質代謝、
セルフレジスタンストレーニング (SRT) と栄養条
件、減量と栄養対策、運動と飲料、運動習慣と健
康などに興味を持って取り組んでいる。

⑦ Muramatsu, S., Matsuura, T., Hattori, Yo.,
Hattori, Yu., Muramatsu, T., Brodowicz, G. and
Stavrianeas, S. : Effects of subjective intensity
self-resistance training on oxygen consumption, blood
lactate concentration, and heart rate in male university
students, *Bulletin of The Faculty of Education, Chiba
University*, 52, 381-387. (2004)

Muramatsu, S., Hirota, Y., Saito, H., and
Stavrianeas, S. : Changes of POMS profiles of
university female volleyball players with or without
counseling of nutrition and life style. *Bulletin of The
Faculty of Education, Chiba University*, 52, 389-397.
(2004)

Muramatsu S., and Harmer, P. A. : Lifestyle
challenges for students on long-term study programs
in the USA, *Bulletin of The Faculty of Education*,
Chiba University, 53, 373-380. (2005)

⑧特になし (何でも興味有り)

⑨人は変わっていくものではなく、変えていくも
の。創意工夫で磨きをかけよう。何でも食欲に吸
収を！

山崎 良雄教授

①やまざき・よしお

②地球環境教育論

③ 1946 年 4 月 27 日

④千葉大学教育学部 (1970 年 3 月)、大学院：東
京教育大学博士課程地質学鉱物学専攻 (1976 年 3
月)

⑤ 1992 年 04 月 国士舘大学教養部教授、1993
年 04 月 千葉大学教育学部教授

⑥環境地質学、温泉地質学、地学情報論、地学教
材論

⑦地球探検隊の試み、共著、2006 年 2 月、千葉
大学教育学部研究紀要,54,

pp.319-326.

大学を通して日本と世界を結ぶ授業、2006 年 3 月、千葉大学教育実践研究、13, pp.39-45.

図説、学力向上につながる理科の題材(地学編)、共編、東京法令出版、2006 年 6 月

⑧バロック鑑賞、演奏、山歩き

⑨研究という行為は、挑戦するに十分な価値があります。研究する苦しみや楽しさを共有しましょう。

吉田 雅巳教授

①よしだ・まさみ

②遠隔教育と国際教育協力論

③ 1957 年 8 月 10 日

④千葉大学大学院教育学研究科 1988 年

⑤昭和 56 年 4 月 東京都立小平養護学校高等部教諭(昭和 60.3 まで)、昭和 60 年 4 月 東京都立墨田工業高等学校定時制教諭(平成元.10 まで)、平成元年 11 月 富山大学講師教育学部(附属教育実践研究指導センター)に採用、平成 3 年 12 月 富山大学助教授教育学部(附属教育実践研究指導センター)に昇任(平成 7.9 まで)、平成 5 年 8 月 富山大学教育学部大学院、教育学研究科、教育工学専攻(修士課程)、平成 7 年 10 月 放送教育開発センター研究開発部助教授に採用(高等教育研究室)(平成 9.3 まで)、組織改組により名称変更:メディア教育開発センター研究開発部助教授メディア活用、研究開発系(平成 15.10 まで)、平成 13 年 4 月 総合研究大学院大学文化科学研究科メディア社会文化専攻(博士後期課程)

(平成 15 年 10 月まで)、平成 15 年 10 月 千葉大学教育学部教育実践総合センター教授に採用(学士課程)(現在に至る)、平成 16 年 4 月 千葉大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻(修士課程)(現在に至る)、平成 18 年 4 月 千葉大学大学院人文社会科学部公共教育研究分野(博士後期課程)(現在に至る)

⑥遠隔教育、人材資源開発、国際教育設計

⑦ * Yoshida, M. (2004),

<http://www.masami.e.chiba-u.jp/work/work/2004/apeid/apeid04aug.pdf>>Selecting Suitable and Feasible Strategies for e-learning Enterprises of Educational Institutions, Direction paper presented at Seminar-Workshop on e-learning. Asia Pacific Programme of Educational Innovation for Development (APEID), Tokyo Gakugei University, 30th August 2004, CD-ROM (ENGLISH)

* 吉田雅巳(2004), 教育機関の e ラーニング事業のための適切で実現可能性のある戦略の選択, APEID e ラーニングのセミナーワークショップ基調講演論文, 8 月 30 日 於 東京学芸大学, CD-ROM (ENGLISH)

* Yoshida, M. Lavansiri, D and SOMBUNTHAM, S. (2005), <http://www.masami.e.chiba-u.jp/work/work/2005/iasted/iasted05.htm>> Inventing Course Development Approach for University HRD Enterprise with Blended Education, Paper Presented at Eighth IASTED International Conference on Computers and Advanced Technology in Education. CATE 2005, at Oranjestad, Aruba, 29-31 Aug., Presentation 30th Aug., Proceedings 470-030 (CD-ROM). (ENGLISH)

* 吉田雅巳, ラバンシリ ディレック, ソンブントム スパンニー(2005), ブレンデッド教育による大学の人材資源開発のためのコース開発手法の研究, 第八回 IASTED 教育におけるコンピュータと先進技術についての国際会議 CATE2005, 於 オランジェスタッド アルバ, 8 月 29-31 日 (30 日報告), 470-030 (プロシーディングス), CD-ROM (ENGLISH)

* 吉田雅巳(2005), <http://www.masami.e.chiba-u.jp/work/work/2005/mmu/mmu05.htm>>マレーシ亚马ルチメディア大学における遠隔教育事業の情勢, 千葉大学教育学部研究紀要, 第 54 巻, 209-215 頁。

* Yoshida, M. (2005), The Situation of Distance Education Project in Multimedia University, Malaysia, *Bulletin of the Faculty of Education*, Chiba University, Vol.54, pp.209-215. (Japanese)

⑧趣味：Hardy Palm Germination

特技：水泳とスキーで指導員を持っていたが、今はやっていない。

⑨海外の教育機関と連携した研究活動を行っています。

吉田 睦助教授

①よしだ・あつし

②ユーラシア文化論

③ 1958 年

④ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所、1997 年

⑤ 1981-1992 外務省、1997-1998 ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所客員研究員

⑥ロシア極北先住民の生態人類学的研究

⑦吉田睦「シベリア先住民における魚の禁忌と聖性」、小長谷有紀編『北アジアにおける人と動物のあいだ』東方書店、2002：43-71.

吉田睦『トナカイ牧畜民の食の文化・社会誌ー西シベリア・ツンドラ・ネネツの食と生業の比較文化ー』彩流社、2003

吉田睦「西シベリアの先住民族」、岸上伸啓責任編集『極北』（世界の食文化 20）農文協、2005

⑧写真、ランニング、料理（食べ歩き）

⑨自分たちと同年代の人たちがどのような社会的立場・位置にあるか考えて、行動してください。

<平成 17 年 8 月着任>

石原 俊助手

①いしはら・しゅん

③ 1974 年

④京都大学大学院文学研究科（社会学専修）博士後期課程単位取得退学（2002 年）、京都大学博士（文学）（2005 年）

⑤京都大学研修員（2002-2003 年）、龍谷大学社会学部非常勤講師（2002-2005 年）、日本学術振興会特別研究員(PD)（2003-2005 年）、立命館大学大学院先端総合学術研究科非常勤講師（2003-2006 年）、千葉大学大学院社会文化科学研究科助手

（2005 年 8 月-2006 年 3 月）

⑥研究分野は、地域社会学・歴史社会学・法社会学。研究テーマは、グローバル化や帝国の形成・再編のプロセスにおける島嶼社会の「近代」経験。主要な研究対象は、小笠原諸島・沖縄諸島とその関連諸地域。

⑦著書（共著）『小笠原学ことはじめ』南方新社、2002 年

著書（共著）『複数の沖縄——ディアスポラから希望へ』人文書院、2003 年

論文（単著）「主権的な法と越境する生活世界——『日本帝国』占領下小笠原諸島の『帰化人』をめぐる自律的諸実践」（『社会学評論』56 卷 4 号、日本社会学会、2006 年）

著書（単著）『近代日本と小笠原——移動民の島々と帝国』平凡社（近刊）

⑧睡眠

②ニューズレターへの掲載が遅れてしまいましたが、去年の夏、関西から赴任してきました。「少子化」と「大学院重点化」のあおりで、人文系の若手研究者をめぐる状況は年々しんどくなっていますが、お互いぼちぼちがんばってまいりましょう。

人社研博士後期課程所属教員による出版物



土田知則編『狂気のディスクルス』夏目書房、2006年2月、2400円（税別）。

社文研・研究プロジェクト「文学・思想テキストにみる“狂気的事象”に関する研究」の報告集（第130集）として刊行されました。執筆者は、編者の他、水上藤悦、小沢自然、鴻野わか菜、中村容、小倉敏彦、須藤温子、長谷川晶子、竹内康史。

科学研究費（新規）プロジェクトの紹介

- 1) 代表者
- 2) 年度
- 3) 予算総額
- 4) 研究分担者（所属）
- 5) 研究計画概要

北東アジアにおける「記憶」と歴史認識に関する総合的研究

- 1) 三宅明正 2) 2006～09年度
- 3) 4589万円（間接経費を含む）
- 4) 三宅明正、山田賢、安田浩、米村千代、荻原真子、片桐雅隆、渋谷望、小沢弘明、三宅晶子、高木元、古勝隆一（以上文学部）、趙景達、三浦佑之、中川裕、池田忍（以上人社研）、見城悌治（国際教育開発センター）、橋本雄一（言語教育センター）、桜井厚（立教大学）
- 5) ある社会集団に共有される「歴史」の記憶が、ナショナリズムと結びついて他の記憶を排撃し、

相互理解のための対話を困難にさせ、ひいては抜き差しならぬ対立へと至るのは、現代において多々見られる事態である。北東アジアにあっても、異なった「歴史」の記憶、その集合的記憶への固執が、今なお融和を妨げていると言ってよい。これを打開していくためには、過去の「事実」を可能な限り合理的に復元することとともに、集合的記憶が生成・継承され、ある社会集団の「歴史」として認知されるプロセス自体を解明することが求められている。本研究は、北東アジア各地域における集合的記憶が、どのように生成・継承されてきたのかを、歴史学、民族学、社会学、言語学、文学等の共同研究によって総合的に考察しようとするものである。

「ニュー・エコノミー」型経済システムの研究ー現代アメリカを焦点に

- 1) 秋元英一 2) 平成18～20年度
- 3) 1440万円 4) 篠原総一（同志社大学）、須藤功（明治大学）、村山裕三（同志社大学）、地主

敏樹（神戸大学）、加藤一誠（日本大学）、佐藤千登勢（筑波大学）、久田由佳子（長野県短期大学）、山本明代（名古屋市立大学）、原口弥生（茨城大学）、橋川健竜（千葉大学）

5) ニュー・エコノミーという用語を、より経済構造の変動に引き寄せて解釈し、たんなる IT パブ的な傾向をさすのではなく、人々の経済行動様式の変化を伴い、競争自体をより激化させて、社会に広汎なインパクトを与えるものとする視座を基本とする。1990年代以降のアメリカ経済を焦点に、経済学の立場と歴史学の立場の協力を軸に、景気循環の特性がどう変わり、何が生産性をどのくらい上昇させているのか、分配面でどういう変化が生じているか、知識経済への移行は環境負荷を増大させているか、等々について、理論的、実証的に考察を深め、経済学的・歴史的パースペクティブからする新たなニュー・エコノミー論を構築することが目的である。

なお、千葉大学との関連では、COE プロジェクトと協力して、平成 19 年 12 月に国際シンポジウムを行う予定である。

公法学と会計学・経営学を融合させた公的セクターのガバナンス研究

- 1) 木村琢磨 2) 平成 18～21 年度
- 3) 18 年度 538 万円（間接経費 128 万円）
- 4) 善積康夫、大塚成男、堀田佳文（いずれも法経学部）、ほか 4 名。
- 5) 本研究では、パブリック・ガバナンスの観点から、公的セクターに関する公法諸原理を、私的セクターに関する会計学・経営学・私法学等の理論を比較対照させながら検討し、さらに実務的観点から効率的・効果的な行政運営に向けた考察を行う。フランスと英米系諸国との比較検討や、公法学の古典的学説をもとにした基礎理論的研究もあわせて行う。

戦後日本における「家」と家業経営の変容過程に関する歴史社会学的研究

- 1) 米村千代 2) 平成 18～21 年度
- 3) 4 年間で 360 万円（本年度は 110 万円）
- 4) 本人のみ
- 5) 戦後日本における「家」と経営の変容過程を、家族と家業経営の両側面の関連に着目して研究することが目的である。家族社会学の領域においては、「家」は戦前の家族制度の象徴として戦後家族とは対比されて捉えられてきた。もちろん、「家」や家族をとりまく制度が戦前戦後では大きく異なることはいうまでもないが、現実には戦前から変容していた側面、戦後なお続いてきた側面両方を含んでいる。その変化の過程はまた単線的ではない。戦後 60 年を経た今も、「家」をとりまく問題は決して過去とは言い切れない側面を持っている。この変容が、「家」の消失過程であるとするならば、どのようなタイミング、速度で、どのような直接的／間接的要因で起こったのか、もし存続過程とするならば、その理由や背景は何か、再生産されているとしたらその意図や価値意識は何に求めればよいのか、こういった「家」の変容過程を長期的、複合的変容過程において捉えようというのが本研究の概要である。

司法の政治学——その予備的考察

- 1) 新藤宗幸 2) 18～19 年度
- 3) 230 万（18 年度）、120 万（19 年度）
- 4) 宮崎隆次（人社研）、石田憲（法経学部）、魚住弘久（法経学部）、関谷昇（法経学部）、北村賢哲（法経学部）、笹倉宏紀（法経学部）
- 5) 本研究の目的は、現代日本の司法のあり方について、それを特徴づけているベーシックな要因を解明することにある。司法制度の透明性や迅速性の確保、陪審や参審制の導入などを中心とした数多くの問題が提起されている一方、司法を取り巻く現実はいまだとして解明されていないことも事

実である。司法に関する研究は、専ら判例研究か、時々事件についての評論の域を出るものではないが、本研究は制度の内部装置とその行動を、歴史的かつ比較研究の視点から、総合的に追究することを試みる。大きくは、「政党政治と裁判」「違憲立法審査と政党政治」「司法官僚制の基礎構造」「戦後司法改革および法務省・検察庁関係」「デモクラシーと司法参加」「政治と裁判の国際比較研究」「特別裁判所と政治」の7つを柱としながら、行政・歴史・思想に関わる政治学者と民・刑事訴訟法学者の連携によって研究が進められる。

福祉・環境・スピリチュアリティを包含したケアとコミュニティ空間の構築に関する研究

- 1) 広井良典 2) 平成 18～19 年度
- 3) 150 万円 (18 年度)、40 万円 (19 年度)
- 4) 喜多敏明 (園芸学部)、小林正弥 (大学院人文社会科学部)、倉阪秀史 (法経学部)、上村雄彦 (COE 研究員)
- 1) 「ケア」というテーマは現在においては多くの分野に浸透し人々の関心の対象となっているが、現代社会における様々なストレスや自然からの乖離、伝統的なものからの隔離、身体性の希薄化といった状況を考えれば、コミュニティや自然との関わり、スピリチュアリティといった、より包括的な視点からケアをとらえなおすことが必須の作業となっている。本研究は、研究代表者らがこれまで行ってきた新たなケアモデルに関する調査研究や「鎮守の森・お寺・福祉環境ネットワーク」の実践を踏まえつつ、特にケアにとって (a) コミュニティ、(b) 自然 (環境) 及び (c) スピリチュアリティがもつ意味及びその相互関係に着目し、1) これらの要素を取り入れたケアの形態ないしコミュニティ空間形成の具体的事例についてのケース・スタディと、それを通じた新たなケアモデルの効果に関する分析・検討、2) 医療・福祉・環境、スピリチュアリティ各々に関する

異なる領域の研究者・従事者の相互交流を促進するためのネットワーク形成 (「福祉・環境・スピリチュアリティ・ネットワーク (WES ネット: Welfare, Environment (Ecology) and Spirituality Network)」、3) 以上を踏まえた、福祉・環境・スピリチュアリティの要素を取り入れたケアモデル及びコミュニティ空間の構築に関する提案やその支援のための政策等の提言を行うことを目的とするものである。

軍記を中心とした日本古代中世文化と戦争被害の諸相に関する包括的研究

- 1) 久保 勇 2) 平成 18～20 年度
- 3) 140 万円 4) なし
- 5) 本研究は、第二次世界大戦後 60 年を経過した現在もお議論が続く「戦争犠牲者を如何に考えるか」という問題に通ずる課題である。自身の専門領域である日本中世文学 (軍記) 研究の立場から、古代中世という時代を射程とし、文化史的に考察を進める。具体的には『将門記』『陸奥話記』『奥州後三年記』『保元物語』『平治物語』『平家物語』等々の軍記文学作品において、〈戦争犠牲者〉たちが、戦争の史的状況として「如何に失われ」、その死に至る表現が「如何に描かれ」、戦没者への想いとして「どのように受け容れられ」たのか、という三段階に問題を整理し、それらの諸相を明らかにする。特に注目する問題の一つとして〈斬首〉がある。戦闘相手の「首を取る」行為、都大路を渡し、獄門に懸けるという行為については、既に文化人類学・民俗学的なアプローチ (「供犠論」) もあるが、ここには軍記文化 (物語、絵巻など広義の) の発生論的な問題が潜んでいると考える。軍記の発生をめぐっては、戦争犠牲者への〈鎮魂〉を契機とする説が広く説かれるが、「首を取られる」=〈戦死の物語〉の表現が立ち上がる瞬間について論じられることは少ない。人々の「畏怖」「興味」等々、様々な思いを上記の表現から析出する。その上で後の〈鎮魂〉の営みを捉

え直してみようと思う。

小笠原諸島の先住移民の生活世界に関する 社会学的研究：20 世紀を中心に

1) 石原 俊 2) 平成 18 ～ 20 年度

3) 280 万円 4) 分担者なし

2) 本研究の目的は、日本帝国の形成過程で沖縄や北海道などとともに占領の対象となり、第二次世界大戦後は米軍の占領下に置かれてきた、島嶼社会・小笠原諸島の人びとが、主権的な法や秩序とわたりあい、生活世界を組み替えながら、どのように生き抜いてきたのかを、フィールドワークによるインタビュー調査と文字資料の収集・分析に基づき、明らかにすることにある。主に対象とする社会集団は、日本帝国による占領以前から同諸島に住み着いていた、世界各地をルーツとする移住者の子孫で、日本帝国の下では「帰化人」として掌握された人びとである。対象時期としては、これまで研究が手薄であった、20 世紀を中心に扱うものである。

社文研・人社研博士後期課程院生の 研究業績紹介

酒井アルベルト『『デカセギ』の十五年 ― 日系性を生きる道―』桜井厚編『戦後世相の経験史』2006 年 5 月、せりか書房

藤方博之「譜代大名家臣団の通婚実態―近世後期・佐貫藩阿部氏家臣団を中心に―」『千葉史学』48 号、2006 年 5 月

工藤昭子 (2006) 「ラレル文の習得―留学生・子ども・大人のラレル文習得の比較―」東京経営短期大学紀要第 14 巻、189-212.

Akiko Kudo (2006), A Case Study on Management of Language Choice by Multilingual in Japan, *Chiba University Social Science and Humanities* Vol. 12, 129-141.

バリー・ストラウド著、永井均監訳、岩沢宏和、壁谷彰慶、清水将吾、土屋陽介訳

『君はいま夢を見ていないとどうして言えるのか―哲学的懐疑論の意義―』（丹治信春監修「現代哲学への招待」シリーズ、ISBN: 4393323122）、春秋社、2006 年 6 月 25 日第 1 刷発行

角田季美枝「(平成 17 年度委託事業) 欧州地域の機械関連分野における『企業の社会的責任』動向調査」報告書（分担執筆、委託先：株式会社 経済分析センター、発行元：財団法人 機械振興協会経済研究所）、2006 年 3 月

角田季美枝「環境省委託 平成 17 年度有害化学物質のための新たな政策枠組みについての調査研究業務報告書」（分担執筆、発行元：有限会社 オフィスアイリス）、2006 年 3 月

アルタンジョラー（共著）, From Shamanist Healing to Scientific Medicine: Bonesetters in Inner Mongolia, *MONGOLS FROM COUNTRY TO CITY*, Nordic Institute of Asian Studies, 2006.

平成 18 年度前期全体研究会のお知らせ

平成 18 年 9 月 25 日（月）～ 26 日（火）の 2 日間にわたって開催されます。プログラムの公表は 8 月上旬に予定されておりますので、人社研・社文研HPでご覧下さい。

人社研HP

http://www.shd.chiba-u.ac.jp/~ghss/activity_general.html

社文研HP

http://www.shd.chiba-u.ac.jp/b_zentai.html

平成 18 年度紀要刊行予定

『人文社会科学研究（旧社会文化科学研究）』
第 13 号が 9 月末に刊行されます。改組に伴う名
称変更を機に表紙デザインが変更されることにな
り、森佳三氏（社文研博士後期課程在学中）のデ
ザインをお願いしました。どうぞお楽しみに。

『人文社会科学研究』第 14 号について

募集 2006 年 10 月 16 日（月）

～ 11 月 15 日（水）午後 5 時

原稿締切 2006 年 12 月 13 日（水）午後 5 時

発行 2007 年 3 月中旬

『投稿規定』『スタイルガイド』など詳細はH
Pをご覧ください。

人社研HP

<http://www.shd.chiba-u.ac.jp/~ghss/students.html>

社文研HP

<http://www.shd.chiba-u.ac.jp/domestic/index.html>

お知らせ

本年 4 月の人文社会科学研究科への改組に伴
い、旧『社文研ニュースレター』を第 15 号から
引き継ぎ『人社研（博士後期課程）ニュースレタ
ー』と名称変更しました。今後ともどうぞよろし
くお願いします。

